

別添2

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所  
事業所名：若槻保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] 法人の理念である礼節、忍耐、誠実の理念の下、「健康な心身の子ども、好奇心・探求心のある子ども、やさしい子ども」との保育目標を謳い、0～6才までの年齢別に具体的な保育課程が計画されている。  [検討課題] 児童憲章や子どもの権利条約、児童福祉法など、併せて保育指針の改訂による発達に応じた計画を職員間で更に習得・理解・共有化の必要があると思われる。
					■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。						
■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。						
(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	□ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 子どもと一緒に野菜（さつまいも、大根、トマト）を作ったり、玄関脇にカメラやメダカの飼育スペースを設けたり、園外保育で得たドングリでの創作活動の作品を展示したりと、子ども達の興味・関心を持たせる工夫をしている。 また、南側に面した園舎であるが、テラスが狭く建物の構造上の問題も多いなか、防風カーテンや寒冷紗などで風や暑さ対策をして、子どもの生活に配慮している。  [検討課題] 家庭と保育園での保育環境の差は、子どもの育ちに大きな影響を与えることを意識して、一般家庭との差を少しでも減らすような新たな取り組みや工夫が期待される。		
			■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。			
			■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。			
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
□ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
□ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 各保育士は、一人ひとりの子どもの個人差に配慮しながらの声掛けで、まず目をあわせて話を聞く、配慮した態度が確認でき、子どもの表情も明るい。  [検討課題] 職員間で声掛けについて、子どもを肯定的にとらえる事は褒めるだけでなく、子どもが認めてくれたと理解できるようにするにはどのような声掛けが効果的なのかなど、共有しておく事も必要であろう。			
		■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。				
		■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。				
		■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。				
		■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。				
		■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>0～5才までの発達に促した食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、清潔、運動と休息など、年間の保健計画や保育計画に組み込まれており、一人ひとりの発達の状況にあわせた支援が行われている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>排泄の失敗など、子どもの困った状況における配慮は、プライバシーの保護と併せて検討する必要がある。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていこう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>□ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>□ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>園庭でドッチボールや竹馬など、子どもの自由な遊びも多く、保育士も一緒に身体を動かして中に入って遊ぶ姿が確認できる。</p> <p>また、近くの公園は身体をたくさん動かして遊ぶ公園や、木の実のある公園など、たくさんあり、身近な社会資源を有効に使った園外保育の機会に恵まれて、子ども達は自由に思いきり遊び、楽しみとしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>分譲住宅、団地に囲まれた保育園であり、団地内の空き部屋や高齢化もあるが、地域の高齢者や子育て世代など、地域住民との係わりを意識的に取り入れるなど、子どもが多く多様な多くの大人と接する機会を設けるなどの取り組みは期待したいところである。</p> <p>また、子どもが見につける社会的ルールをリスト化したりして、どの保育場面で習得支援するのかなど、保育実践での教育的配慮についての更なる充実も必要であろう。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>途中入所児が多く、一人ひとりの家庭での様子を把握しながら、園生活に慣れるように支援している。</p> <p>さらに、手作り玩具も用意してあり、乳児が遊ぶ姿も確認できる。</p> <p>また、1才児クラスと交流しながら、生活のリズムをつける工夫もしている</p> <p>[検討課題]</p> <p>1人で身体を十分に動かせるように、また、ハイハイなどの探索活動ができるような部屋の配置と工夫も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 <input type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの子ども達の様子をみながら、天気の良い日は散歩に連れて行ったり、テラスで3才以上児の体操をみて一緒に身体を動かしたりしながら、ゆったりとした生活が送れるように取り組んでいる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>園での子どもの成長を保護者等と共有できるのは連絡帳と思われるので、連絡帳の使い方、活用方法について職員間で検討し共有することが期待される。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>3,4,5才児は、ホワイトボードを利用して毎日の子どもの活動や当番、明日の予定など掲示している。また、月1回のクラスだよりを配布して、子どもの生活を知らせている。なかよしトリオと称して、3,4,5才が体操などをグループになって行ったりしながら異年齢交流を行い、年少の子は年中の子の遊びや年長の子の運動する姿に影響を受けながら、意欲的に取り組む姿が視られる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>各年齢での課題をリスト化するなど、系統的に組み入れていくとより効果が得られると思われる。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>支援の必要な子は加配保育士が対応している。また、保健師、特別支援学校相談員による園訪問で障害のある子の観察をもらい、指導を受けている。そして、医師から助言を得ながら保育を進め、親の理解も得ながら連携を進めて子どもの支援をしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>身体に障害を持つ子どもに向けた建物の段差や、障害の有無にかかわらず建物のユニバーサル化など、検討課題は多いと感じる。この事は、子どもだけでなく、親子参観や祖父母参観に来園する大人への配慮とも通じるものであると意識したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	<input type="checkbox"/> 59 <input type="checkbox"/> 60 <input checked="" type="checkbox"/> 61 <input checked="" type="checkbox"/> 62 <input type="checkbox"/> 63 <input checked="" type="checkbox"/> 64 <input checked="" type="checkbox"/> 65	<p>1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>[取り組み状況] 未満児、以上児、それぞれ別の部屋で保育の対応をしている。 なお、長時間保育での未満児へのおやつ提供は希望がないため、現在していないという。</p> <p>[検討課題] 長時間を園で過ごす子どもが増えてきており、ほっとできるような、部屋の隅でのんびりできる、寝そべるような環境の提供も期待したい。 また、活動の活発な子には、夕方6時過ぎのおやつ検討や、成長の激しい子どもにとってのおやつ意義を保護者等へ周知・理解を進めることも保育士の専門性と意識したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	<input checked="" type="checkbox"/> 66 <input checked="" type="checkbox"/> 67 <input checked="" type="checkbox"/> 68 <input checked="" type="checkbox"/> 69 <input checked="" type="checkbox"/> 70	<p>計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>[取り組み状況] 小保連絡会は年長担当保育士が主となり、小学校との合同研修会に参加して、就学後の子どもの様子などについて学校と意見交換をしている。 また、園から一番近い学校へ行き、年長児と1年生との交流の機会を設け、子ども達の入学への期待を高めている。</p> <p>[検討課題] 運動会・音楽会などの学校行事への訪問など、相互交流を目指す取り組みや、小保連絡会で得られた卒園児の課題など、保育内容に教育的配慮として組み込むなどの連絡会を活かす取り組みが更に進むことが期待される。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 71 <input type="checkbox"/> 72 <input checked="" type="checkbox"/> 73 <input checked="" type="checkbox"/> 74 <input checked="" type="checkbox"/> 75 <input checked="" type="checkbox"/> 76 <input checked="" type="checkbox"/> 77 <input type="checkbox"/> 78	<p>子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</p> <p>子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</p> <p>子どもの保健に関する計画を作成している。</p> <p>一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</p> <p>既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</p> <p>保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</p> <p>職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</p> <p>保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。</p>	<p>[取り組み状況] 「一人ひとりのこどもが健やかに発育発達をすることができる」を園全体の目標とした保健年間計画がたてられ、毎月の体重・身長測定、年2回の内科・歯科検診が実施されている。 計画は、3か月ごとの目標と発達段階にもとづいた、子どもへの指導計画と保育計画が明記され、保護者へは集団生活の留意点、生活リズムの大切さ、感染症の対応等も伝えている。</p> <p>[検討課題] 保健だよりを発行するなどして、季節に応じた情報の発信も感染症の蔓延を防ぐ手立てになると考えたい。 また、職員へのSIDSや窒息のリスク、応急処理に関する知識の充実とともに、保護者へもそれら情報の提供は専門職としての務めと考えたい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		b)	■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	[取り組み状況] 内科、歯科検診が年2回、眼科検診が年1回実施され、結果は保護者に伝えている。 歯科検診の結果、虫歯があった場合などは、治療が行われたかなど、その結果も確認が行われている。  [検討課題] 食後の歯磨きは、終了後に保育士が正しく磨けているかなどの確認は期待したいところである。
	□ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。					
	■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。					
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		b)	■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	[取り組み状況] 入園前の面接にて食物アレルギーの有無の確認を行い、アレルギーのある場合は医師から診断書をもらい、栄養士、調理員、担任、保護者との面談を済ませ、アレルギー除去食が提供される。 また、アレルギー対応マニュアルは作成されている。  [検討課題] アレルギー疾患、慢性疾患等に関する学習会を開き、全保育士が共通の理解を更に深めていくことが期待される。 併せて、好奇心旺盛な他の子ども達への統一した説明について、園の規定やその周知による意思統一は必要であろう。
	■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。					
	■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。					
	■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。					
	■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。					
	■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。					
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		b)	■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	[取り組み状況] 「楽しんで食事ができる、健康な子ども」を目標に、年齢に応じた食育年間指導計画が立てられている。そこでは「楽しんで、すすんで食べる子・食材に興味の持てる子・自然の恵み、命の大切さに気づける子」を謳い、保育課程にも食を営む力の基礎をあげ実践している。 毎日のメニューは玄関のサンプルケースに展示され、保護者等の迎えの時にはそれを見て、親子等で会話する姿を見ることが出来る。年長児は給食食材の準備の手伝い(玉ねぎ等の皮むき)、畑で野菜の栽培をおこない、その育てた野菜を調理して頂き食材への関心を深め、調理師への感謝の気持ちも育てている。  [検討課題] 子どもの食前の献立発表は食材の名前やその産地、調味料についてなど、更なる工夫も期待したいところである。 また、冬季での主食用の保温庫などの設置で、衛生管理とともに温かい食事の提供への配慮も期待したい。
	■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。					
	■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。					
	□ 91 食器の材質や形などに配慮している。					
	■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。					
	■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。					
	■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。					
	■ 95 子どものお食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>毎月8日は野菜の日として具材の野菜を学んだり、19日は食育の日として食育のテーマが決められ、献立表に記載するとともに、保護者へのお知らせとして知識や話題を提供して関心を高めている。</p> <p>誕生会のお楽しみ給食、行事食も提供され、季節を感じる献立となっている。</p> <p>また、年長児はよもぎ団子・うすやきのおやつ作りを体験し、楽しみながら食への興味を深める機会も提供している。</p> <p>さらに、一人ひとりの食べる量を把握して量を加減しながら盛り付けをし、食べる喜びを味わえるような声掛けをしている様子も視られる。なお、子ども達は多少の時間差はあるが完食している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>食事マナーや配膳方法、箸の使い方など、保護者等と連携しての正しい方法についての習得支援についての見直しや検討が期待される。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>□ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>各クラス入り口のホワイトボードに一日の活動内容が報告され、一週間の予定も記載されている。そして、未満児においては毎日、連絡帳により家庭と園との情報交換が行なわれている。</p> <p>また、以上児は保護者からの連絡等に連絡帳を使っている。さらに、園だより、クラスだよりの発行だけでなく、子どもの様子を知ることができる法人ホームページのIDによる情報提供もある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者等の知りたい情報は日中何をしたかではなく、我が子はその事によってどう変化・成長したかである。連絡帳の意義やその記載内容についての標準化を含む検討は必要であろう。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>参観としてプール参観、運動会、未満児保育参加、全クラス参観日が開催され保護者等に提供されている。</p> <p>また、モニター会を年2回開催し、園の運営、保育、行事に関しての意見や要望を聞いている。そして、保護者と地域の方8名が参加する保護者アンケートも実施している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>利用者調査においての属性では、父・母とも常勤者が多数を占めており、また、園長を除いた保育士の年齢を上回る保護者像が浮かび上がっている。このため、面接相談の体制やそのマニュアル等の充実、また、相談・援助技術の習得・向上も必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>□ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>b)</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>□ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 虐待等権利侵害防止については、子どもの心身の様子を生活面、服装、身体測定等で注意をはらって見ている。</p> <p>[検討課題] 若槻保育園では事例はないが、昨今、痛ましい事件も増えている現状にある。虐待の芽チェックリストの活用や対応マニュアルの更なる整備を進め、マニュアルに基づく実践研修など、理解を更に深める取り組みは期待したいところである。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>b)</li> <li>□ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>□ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 年間指導計画、月案の項目に自己評価の欄が設けられており、保育の反省の記録としている。 また、年度末に、保育士は「自己の振り返り表」を使って自己評価を行っている。</p> <p>[検討課題] 年度末の保育士の振り返り表や年間指導計画や月案の自己評価など、それらを次のステップへ活用する職員間での話し合いや共有化を図る取り組みの機会を増やすなど、継続的・組織的に次の保育への改善を図ることで、園全体の保育の質の向上につながると考えたい。</p>